

## 『おせっかいな産婦人科医のつぶやき』

少子高齢化から更に高齢化が進んだ少子超高齢化という時代を迎えようとしています。いつも話題になるのは、高齢者への対応ばかり。皆、平等に年を取りますので、社会にとって地域包括ケアは大切なことです。でもその陰で、超少子化も進んでいます。最近、菅総理が体外受精の保険適用案を掲げて注目が集まっていますが、不妊治療で少子化が改善するとは思えません。地域子育て支援という施策もあり、「子どもは社会の宝」といいますが、我々の社会は女性が、子どもを産み育てる苦労を理解し、支え合っているのでしょうか。そこが大きな課題だと思っていますが、産婦人科医としては、今の妊娠、出産がとても良い状況ではないように見えます。もちろん、「産む・産まないは女性の権利」です。決して社会から強制されるものではありません。色々な考え方があって当然です。結婚はまだだし、今も将来も子どもを作るつもりはない方、将来的には子どもは欲しいが今はまだという方、また妊娠・出産は不安という方もいるでしょう。でも、少し考えてみてください。妊娠する・しないに関係なく、子宮や卵巣、月経や妊娠に関わる仕組みや病気を知ること、より健康への関心も高まり、より良い人生設計が可能になるかもしれません。そこで、おせっかいと思いつつ、高知医療センター産婦人科医師が、あらゆる世代の女性やパートナーの方、ご家族、周りの方々にお伝えしたい内容を、ちょっと長めのつぶやきでホームページに連載しますので、時々でも気にかけてご覧いただきたいと思います。